

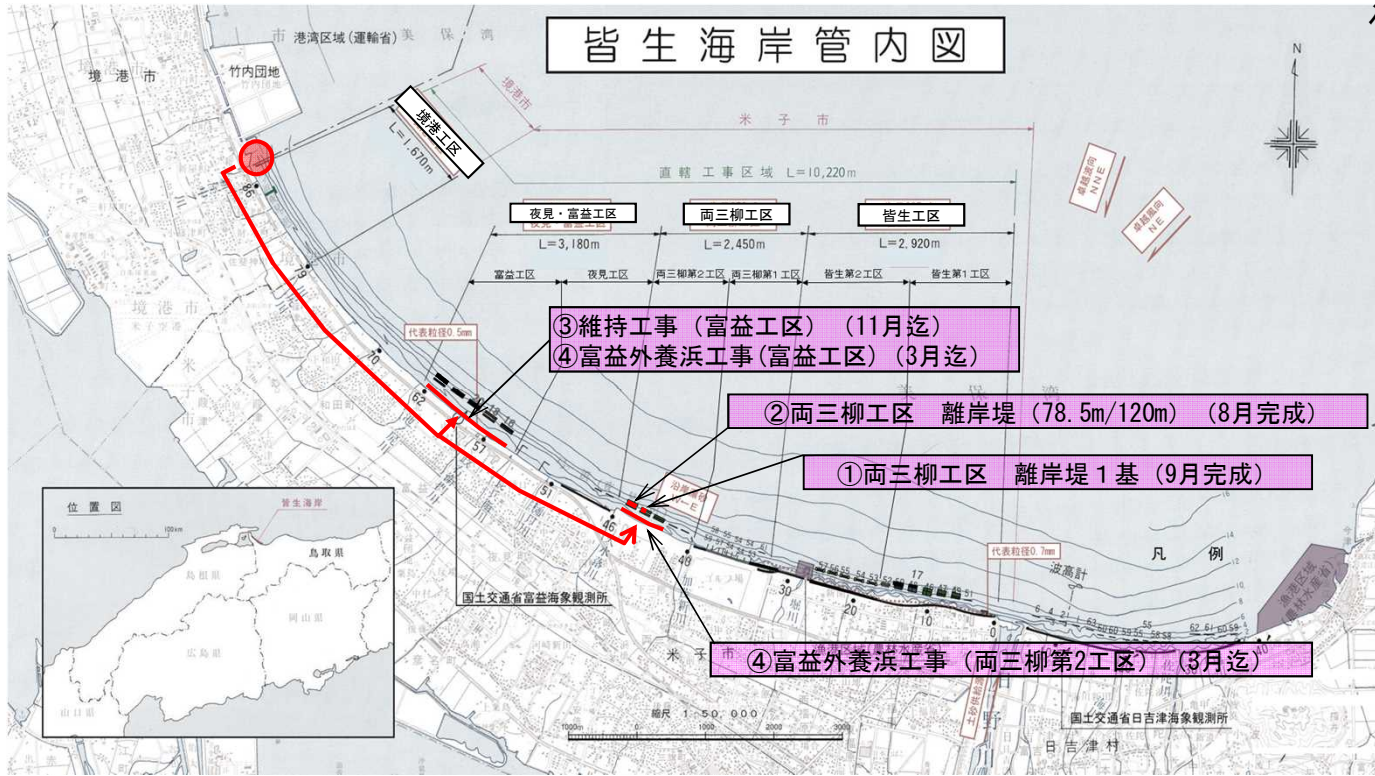
平成28年度 鳥取県西部沿岸土砂管理連絡調整会議
説明資料

平成28年11月15日

国土交通省 日野川河川事務所

海岸保全事業の進捗状況について

海岸保全事業の進捗状況について(平成28年4月)

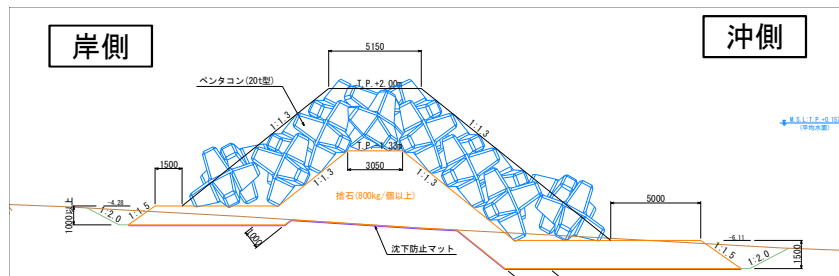
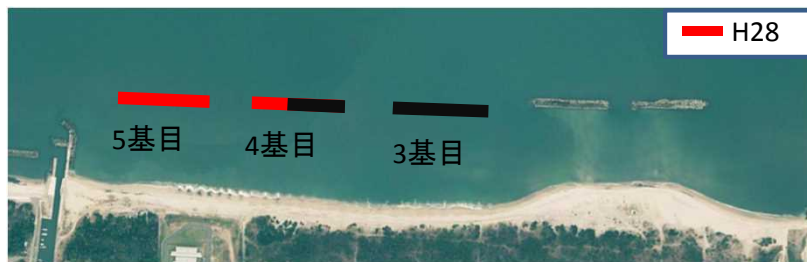


主要な工種	単位	全体	完了	残
沖合施設	基	23	21	2
施設改良	基	5	2	3
突堤	基	42	42	0
護岸	m	2,322	2,322	0
緩傾斜護岸	m	720	720	0
サンドリサイクル	式	1	1	1

本年度工事について

- ① 両三柳工区 離岸堤4基目 (120m/120m) (9月完成)
- ② 両三柳工区 離岸堤5基目 (78.5m/120m) (8月完成)
- ③ 維持工事 (11月迄)
 - 1. 境港工区 → 富益工区 1,000 m³
- ④ 富益外養浜工事 (3月迄)
 - 1. 境港工区 → 富益工区 8,000 m³
 - 2. 境港工区 → 両三柳工区 5,500 m³

両三柳工区 離岸堤



日野川総合土砂管理計画の概要(H27.3.26 策定)

＜本計画の特徴＞

1. 海岸保全対策により、皆生海岸の海岸線の維持・回復を図りつつ、各領域の土砂供給能力を最大限に引き出す対策を実施し、**可能な限り海岸領域への土砂供給を行う**
2. 計画で定めた実施方針にしたがって、関係機関が連携して、**総合的に土砂動態の改善を図っていく**

＜計画対象期間＞

土砂動態を評価する期間として、30年程度を設定

＜海岸領域への供給土砂量を増やす様々な取組＞

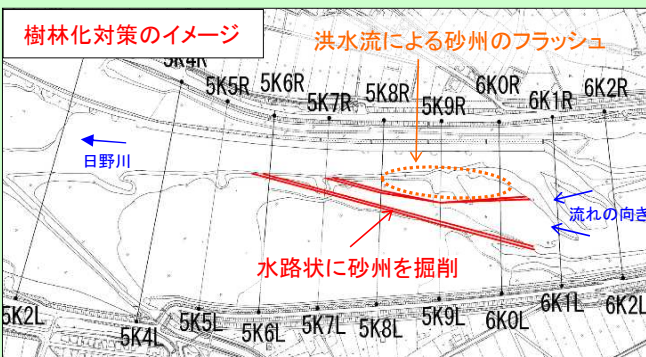
海岸領域

- 沖合防護施設
- サンドリサイクル、養浜など



河川領域

- 河道掘削土砂による置き土
- 砂州の掘削による効率的な樹林化対策



□ S60～H24平均通過土砂量(現況)

□ 土砂管理対策実施後の通過土砂量

河口領域

- 河口砂州の維持掘削土砂による養浜



砂防領域

- 透過型砂防堰堤の整備
- 既設砂防堰堤のスリット化

ダム領域

- ダム貯水池の浚渫土砂によるダム下流部への置き土

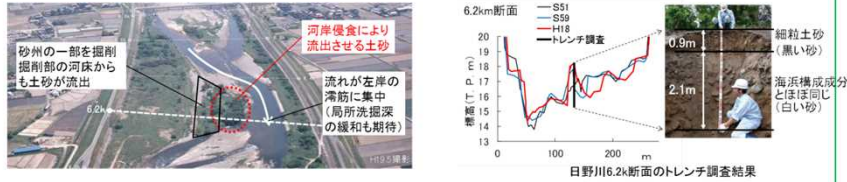


土砂管理計画の取り組み状況(河道掘削土砂による置き土)

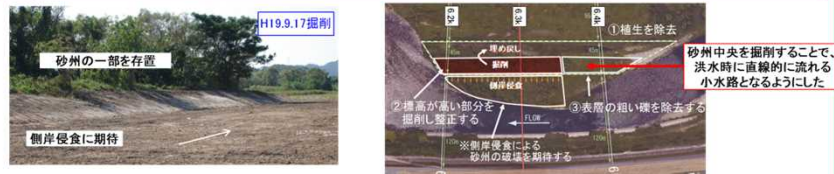
6.2k付近の樹林化した砂州の掘削

- 課題**
- 砂州が河道中央付近で固定化し樹木が繁茂
 - 樹木が繁茂した植生域に土砂が大量に捕捉され、土砂が移動しにくい状況
 - 砂州の固定化により流れが左岸側に集中し、堤防際に局所洗掘が見られる

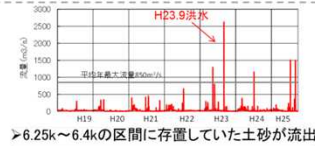
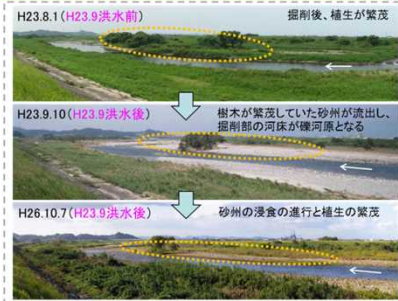
樹林化した砂州の一部を掘削し、洪水の泳力で砂州に堆積していた土砂(海浜構成材料に近い細砂)を流出させる



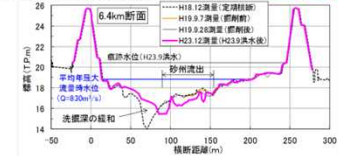
- 対策**
- 砂州に堆積した砂を効率よく流出させるため、砂州の一部(砂が大量に堆積している範囲の半分程度)を掘削し、存置した砂州部は側岸侵食による流出に期待する



- モニタリング**
- H19.9の掘削後、すぐ植生が繁茂したが、H23.9洪水で植生と存置した砂州の一部が流出
 - 存置した砂州からの土砂流出と滞筋部の洗掘緩和



> 砂州上流側(6.4k)では、砂州が流出するとともに、左岸側の滞筋部で堆積が生じ、洗掘深が緩和された。⇒ 二重化の緩和

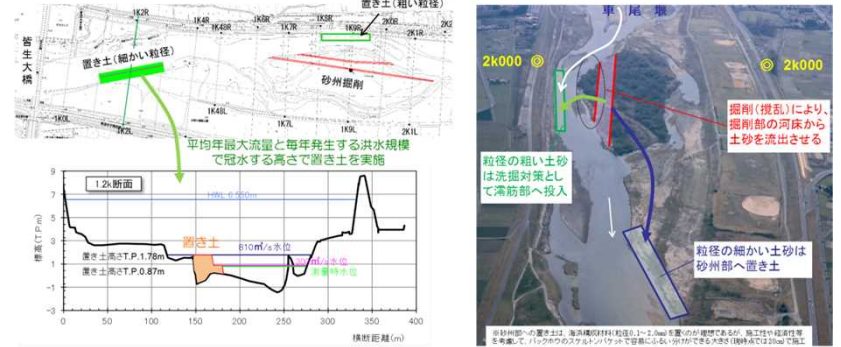


距離標(km)	面積(m²)	区間	土量(m³)
6.20	-5.9		
6.25	-18.0	6.20 ~ 6.25	-596
6.30	-38.0	6.25 ~ 6.30	-1,400
6.35	-9.1	6.30 ~ 6.35	-1,179
6.40	-23.7	6.35 ~ 6.40	-821
合計	6.20 ~ 6.40		-3,996
海浜成分(H19年度調査から31%と仮定)			
※H19年度調査とH23.12調査の数値を合わせにより算出			-1,251

2.0k付近の砂州の掘削および置き土

5.8k同様に樹林化した砂州の一部を掘削し、およびその下流に置き土をおこなう

- 対策**
- ① 土砂供給対策
 - 砂州の一部を掘削し、砂州の河岸を露出させ、洪水による侵食で、堆積土砂(海浜を構成する砂を多く含む)を流出させる方法
 - ② 置き土対策
 - 上記①の土砂供給対策(砂州掘削)により発生した土砂を有効に活用し、河道内への置き土を行い、洪水により下流へ流出させる方法
 - なお、掘削により発生した粒径の粗い土砂は、洗掘対策として滞筋部に投入



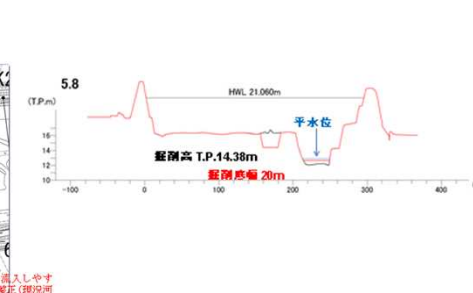
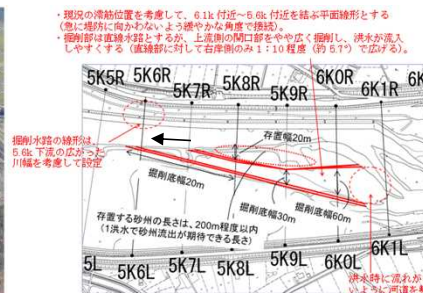
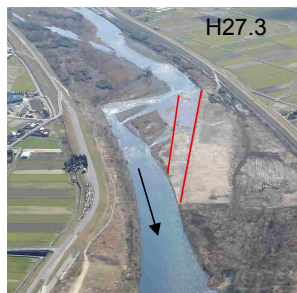
・ 対策後大きな洪水はなく置き土の変動は小さかったが、上流側で側方侵食が生じ掘削水路の表面に礫が露出した



5.8k付近の樹林化した砂州の掘削

対策

砂州の一部を掘削し、洪水時に流れる水路を設ける。その際、右岸側(滞筋側)の砂州を存置するが、存置した砂州部を水衝部とすることで、洪水流により効率的に流出させる。存置した砂州の流出は、砂州部の植生繁茂を前提として超過確率3分の1規模の洪水で流出させる。



・ 現在の滞筋位置を考慮して、6.1k付近~6.6k付近を基本平面線形とする(急に増防に向かわないよう緩やかな角度で接線)
 ・ 掘削部は既設増防とするが、上流側の掘削部をやや広く掘削し、洪水が流入しやすくなる(既設部に対して右岸側のみ1:10程度(約57°)で広げる)

洪水時に流れが速く入りやすくなるよう掘削を修正(滞筋側河床は右岸側に偏った地形と)